

# 北海道師範塾 塾頭通信

## 「教師の道」

第982号 平成27年8月17日

### 数学の天才少年

公益財団法人の「日本数学検定協会」によると、6月の実用数学技能検定で、東京都世田谷区の小学2年生、高橋洋翔君（受験当時は7歳）が、高校3年程度のレベルとされる準1級に合格（合格率は26.1%）したと発表しました。これまでの最年少記録は小学6年生（12歳）だったそうですから、最年少記録を大幅に塗り替えた事になります。

「実用数学技能検定」というのは1992年にスタートしたもので、数学・算数の実用的な技能(計算・作図・表現・測定・整理・統計・証明)を測る検定で、「日本数学検定協会」が実施している全国レベルの実力・絶対評価システムとされています。

検定結果は、級によって評価されており、1級から5級までを「数学検定」と呼び、6級から11級、下図・形検定までを「算数検定」と呼んでいますが、高橋君の場合は小学2年生にして「数学検定」の上から2番目のレベルをクリアしたという事ですから、驚く他ありません。

協会によると、高橋君は2歳のころ数学に興味を持ち、5歳で検定への挑戦を始めたそうです。そして、次々と昇級を重ね、昨年10月に行われた検定では、小学1年生ながら高校2年生レベルの2級に合格し、最年少記録を更新しているとの事です。数学の天才少年が表舞台に登場したという感じがします。

ところで、数学検定の準1級というのは、理系の「数学Ⅲ」を中心に、微分積分や複素数、合成関数などの分野から出題されるのだそうですが、数学が苦手な私には、微分積分と聞いただけでも頭が痛くなりそうです。

2歳の頃から数学に興味を持って勉強を始めたというのは、尋常ではありません。しかも、実際に数学を勉強して数年にして「数学検定」にチャレンジ出来るまでになるというのは、天才と呼ぶに相応しいでしょう。

「天才とは、1%のひらめきと99%の努力である」という言葉があります。

天才というのは、生まれつき備わった優れた才能の持ち主という事ですから、地頭が冴えわたり、優秀でなければなりません。99%の努力なしにはその才能を開花させる事は出来ないという事だと思います。

2歳の子が机に向かって一生懸命数学の勉強をしている図は想像が付きませんが、

幼い頃からそうした努力が出来るという事 자체가、既に天才的です。

高橋君は、2歳の時に、どのようなきっかけで数学に興味を持ったのか分かりませんが、少なくとも、周りの大人達は彼の才能に気づき、その能力を伸ばすための環境を整え、適切な指導者を確保する等様々なサポートをして来たに違いありません。その事なくして、高橋君の快拳はなかったと思います。

高橋君は、現在最高の1級（大学程度）受検に向けて勉強を続けているそうですが、世界には天才的な数学少年が沢山いますので、彼もまた、天才的数学者として世界を舞台に羽ばたいて欲しいと願っています。

（塾頭 吉田洋一）